潮来市立延方小学校(NOBUKATA　ELEMENTARY　SCHOOL) 学校便り　2026. 2. 3発行

第15号
児童数 316名
(男182名女134)

のぶっ子

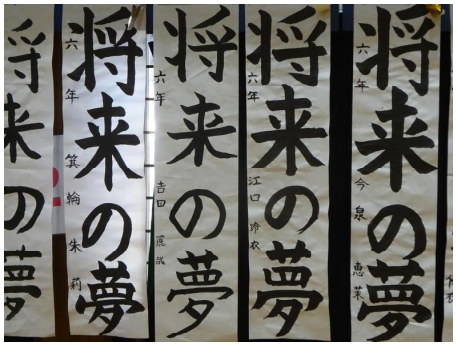
みんなが主役・みんなで学ぶ学校

あいことば：あいあい(I.I)大作戦　スローガン：やさしく かしこく たくましく

〒311-2442
潮来市小泉2090

Tel :0299-66-2076
Fax:0299-66-4692
URL:https://www.itako-school.jp/nobukata-el/

１、２年生は教室で硬筆を使って、３～６年生は体育館などで毛筆を使って書き初めをしました。練習の成果が出ましたか？



全作品を体育館に掲示しました。子供達は、高学年の作品に感心していました。たくさんの保護者の方にも参観して頂けました。

４年生以上は、学力診断テストを行いました。学習の成果は出たでしょうか。間違いがあれば復習して、出来るようにしましょう。

５年生が JFL 夢の教室を行いました。中３から４年間サッカーを離れた元Ｊリーガー土屋征夫さんのお話は、大変興味深かったです。

３、４年生が５名の先生方をお迎えして手話教室を行いました。簡単な自己紹介をしたり、便利な日用品などを見せていただいたりしました。

性教育講演会で医師の陳先生をお招きしました。「生命誕生の奇跡」「自分らしく生きるために」など、５、６年生はたくさんのことを学びました。

ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰの皆藤さんをお招きして、不審者への対応を想定した避難訓練を行いました。色々具体的に教えていただきました。

６年生が、ｷｰﾊﾟｰｿﾝ21から13名の先生方をお招きして、キャリア教育を行いました。自分のわくわくエンジン見つけられたかな？

(有)榊原商店様より市内の小中学校にサニタリー用品が寄贈されました。安心して学校生活を送れるようにとのことです。ありがとうございました。

「おーこわい」 と言っている年配の人に出会ったことはありませんか。農作業などをしているときに聞く言葉ですが、これは「恐ろしい」という意味ではなく、「疲れた」という意味で使われています。この「こわい(疲れた)」という言葉は、昔、京都で使われていた言葉が、長い時間をかけて遠くの地域へ広がり、定着した方言の一つだそうです。今では京都では使われなくなりましたが、各地に残っている方言の多くは、このような過程を経て伝えられてきたといわれています。

昔は、今のようにラジオやテレビ、新聞はありませんでした。言葉を含めた情報は、人から人へと口伝いに、ゆっくりと広がっていったのです。移動手段もほぼ徒歩のみで、交通事故といっても、せいぜい頭と頭がぶつかって、たんこぶができる程度だったことでしょう。しかし、生活が便利になるにつれて、リスク(危険)も大きくなりました。交通事故は重篤化し、死亡事故のニュースを聞かない日はありません。このことは、個人による情報発信についても同じです。

情報発信と聞いてまず思い浮かぶのは、新聞社やテレビなどのマスコミでしょう。報道機関はニュースを発信する際に、「事実関係の裏付けは十分か」「人権への配慮はなされているか」など、幾重にもチェックを重ねています。それでもなおトラブルが起き、訴訟に発展することも少なくありません。

一方、SNS等が高度に発達した現在、私たちの持つスマートフォンは「どこでもドア」であり、「どこでも放送局」ともいえます。その先には世界中に50億人を超えるネットユーザーがいることを、常に意識しなければなりません。軽い気持ちで発信した情報が、炎上(批判の殺到、個人情報の暴露、訴訟問題など)につながる可能性があります。最近話題となっているSNS上での暴力動画の拡散も、発信者は、ここまで大きな問題になるとは想像していなかったのかもしれません。

では、子どもたちを SNS 等のトラブルから守るためには、どのようにすればよいのでしょうか。令和７年度「児童生徒の通信機器等に関する安全な利用に向けた家庭におけるルールづくり等に関する実施状況調査」によると、茨城県内の小学校 4 ～ 6 年生の携帯電話所持率は 62.5 %で、使用にあたって家庭内でルールを決めている割合は 85.6 %となっています。学校では、話題となっている動画の拡散等を受け、暴力やいじめに関するアンケート調査の実施や相談窓口の周知、情報モラル教育の充実などに取り組んでいきます。ご家庭におかれましても、改めて通信機器の使用ルールを確認し、徹底していただきますようお願いいたします。「便利でたのしい」ものが「おーこわい」ものにならないよう、学校と家庭が連携して取り組んでいきたいと考えています。